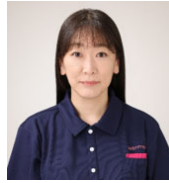


各支部長挨拶～よろしくお願いします～

東支部

このたび東支部長を務めさせていただくことになりました中里理香です。皆さまと力を合わせ、防災への備えを大切に、安心して暮らせる東区を目指してまいります。
(東支部長 中里 理香)



博多支部

普段はプールで働きながら、障害者スポーツや着衣泳などのボランティア活動にも取り組んでいます。防災を通じて地域のつながりを広げ、仲間と共に楽しく活動していきたいと思います。
(博多支部長 今泉 薫)



中央支部

警固断層の存在など頭の中だけで、西方沖地震を経験して初めて知識が現実と結びつきました。そんな時、防災士として地域で活動されている方と出会ったのが縁で資格を取り、活動を始めました。
(中央支部長 坂井 正司)



南支部

私たちのエリアは、川やため池が多く、水害に悩まされてきました。また警固断層が通るため、地震への備えも大切です。いざという時に自分や家族を守るように、地域のみなさんと一緒に活動しています。
(南支部長 入江 修)



城南支部

幹事の牧菌さん、松石さんと伴に上野さんから引き継いだ「ボランティアとして活動できる人が、できるときに活動する」をモットーにメンバーのみなさんと地域防災の取り組み継続します。
(城南支部長 吉田 博則)



早良支部

16期に入会し、その年は副支部長、翌年には支部長となり支部員に助けられながら頑張っています。現在、実質の活動部員約17名、大学生から後期高齢の方と幅広いメンバーと共に試行錯誤で活動中です。
(早良支部長 笠松 直樹)



西支部

10期生で西支部長は2年目になります。地域の防災意識の向上に向け貢献できるよう西支部の会員みんなで、「できるときにできることを」と楽しく、無理なく活動を継続していきたいと考えています。
(西支部長 吉田 義正)



新ジャンパーが完成しました！

リーダー会のジャンパーが新しくなりました。裏地は総メッシュで、脇はストレッチ仕様となっています。価格は4,000円です。サイズや購入については各支部長へご連絡下さい。
(会長 因幡 那水)



編集後記 皆様のご協力により、無事あん・あん通信を発行することができました。掲載記事に関して、ご意見ご要望のある方は、各支部の広報部会員の方にお伝えください。このあん・あん通信が、皆様の情報交換の一助となるよう今後も精進してまいります。
(広報部会長 本岡 俊徳)



博多あん通信

発行元：
博多あん(安全)・あん(安心)リーダー会
代表幹事会長 因幡 那水

2025年(令和7年)

10月1日号

<No.45>

令和7年総会

5月10日(土) あすみに於いてリーダー会の総会が行われました。参加者は顧問2名を含め68名、委任状は54名で、総数120名でした。会員総数が230名のため過半数の出席となり、総会は成立しました。

城南支部の山本孝子さんを司会者として、会長因幡さんから開会の挨拶があり、その後来賓の福岡市市民局 防災・危機管理部 地域防災課長の中元祐輔氏よりご挨拶をいただきました。

続いて西支部の久保千景さんを議長に選出し、議事の進行を行いました。令和6年度の活動報告、決算及び監査報告は、審議の結果賛成多数で可決されました。令和7年度役員を選任では、東支部支部長と幹事の2名、企画部長として博多支部から1名が新人役員として新たに加わりました。その後も提出した全ての議案は可決され、令和7年度のリーダー会運営方針が決定しました。

総会終了後には支部会を開催し、各支部ごとの問題点や行動計画について協議されました。

また、支部会終了後は、研修部会の主催で研修会を行いました。九州大学病院の皮膚・排出ケア認定看護師の大重まどか氏を講師として迎え、「皮膚・排泄ケア領域の災害対策」の演題で約1時間の講演を行っていただきました。

リーダー会のメンバーにとって初めてとなる医療関連の講演だったこともあり、興味深々で聞き入る会員の方も多く、大変面白く拝聴しました。

研修会終了後には、お定まりの交流会が「頤和園天神店」で行われましたが、約40名の参加で支部の垣根を超え大いに盛り上がりました。

(事務局長 正本 博士)

みんなで防災

西方沖地震発生から20年を迎えた3月20日(木・祝日)に新天町商店街サンドームで「みんなで防災」を開催しました。今回は節目の年だったことから多くの関係機関へお声がけし協力を得ることができたため11団体にご参加いただきました。

また、今回車両展示(給水車、モバイルファーマシー、電気自動車)やクイズラリーを実施したところ、通行人も興味を持って立ち止まり、多くの方々が各ブースをまわる様子が見受けられました。

みんなで防災は、リーダー会単独で開催するより、その名の通り関係機関と連携してみんなで開催することが効果的であると実感しました。

また、今回片付け中にケガ人が出たので、更に安全面の注意喚起に十分配慮が必要なこと、この規模の開催には費用がかかることから、助成金などの活用も検討する必要があると次回開催への課題も見えました。

全体的には、備えることの大切さを関係機関とともに周知するいい機会となりました。
(企画部長 牧菌 典浩)



東区地域防災フォーラム 2025～東支部～

5月17日（土）東市民センターのなみきホールにおいて、「地域防災フォーラム」を開催しました。各校区の地域活動にご尽力いただいている、東区自治組織会長会、東区民生委員児童委員協議会、東区社会福祉協議会会長会、各行政機関より後援及び講演調整の全面的な協力を賜り、自治組織会からは協賛金、リーダー会からも助成金を受け、資金面でのバックアップに恵まれました。また、各種団体・各行政機関の皆様には参加者動員にもご協力をいただいたことで、408名という多くの参加者を迎えることができました。企画部会を中心とする支部会員の一致団結した努力・行動力がもたらした結果でもあります。当日の運営には44名もの会員が夫々の役割を果たしました。お蔭さまでリーダー会会長の基調講演とパネルディスカッションの過程の中で、「ふれあいネットワークの活用が重要」との共通認識を討論会のまとめとして導くことが出来たことは、地域防災フォーラムの一つの成果と考えています。尚、当日の能登半島地震復興支援の募金活動におきまして、一般社団法人オープンジャパンに5万円、奥能登にて自主活動をされているマッハコーヒーの村上大代表に5万円を寄付させていただいたことも合わせてご報告申し上げます。



(前東支部長 城下 邦芳)

誰一人取り残さない災害の備え～パネルディスカッション～

「東区地域防災フォーラム 2025」内では地域に根ざした実践的な防災のあり方を探るパネルディスカッションが行われた。自治協議会、社会福祉協議会、民生委員、そして地域防災リーダーである防災士らが、それぞれの立場から「誰一人取り残さない」災害対応の取り組みとして、主に障がい者や高齢者の防災上の課題を語り合った。ここではファシリテーターをつとめた著者の立場からその概要をご紹介します。山中一男氏（香住ヶ丘校区自治協議会会長）は、校区の各町内会に防災士を配置し、防災訓練や子ども向けの体験型教育を進めている事例を紹介、一方で、災害種別ごとの避難所開設や周知体制が不十分であることを課題とした。また、亀田伸裕氏



（東区社会福祉協議会会長）は、日常的な見守り活動を通じて共助の基盤を築く「ふれあいネットワーク」の役割を強調、しかし民生委員の不足により、地域によって支援体制に差が出る現状を指摘した。堺真利子氏（東区民生委員会副会長）は、災害時要支援者名簿や「見守りマップ」を活用し、町内会と協力して支援体制を整える取り組みを説明、大規模災害時にはまず自らの安全確保を優先しつつ、避難を呼びかける行動が命を守ることに繋がると強調した。

議論では、避難行動要支援者名簿と実態のずれを補うための「見守りマップ」作成の具体的手法が共有され、ふれあいネットワークなどを通じて町内会・民生委員・ケアマネージャー、防災士らが協働する姿が浮かび上がった。最後に、各パネリストから「公民館を避難拠点として整備する重要性」、「住民同士の支え合いと事業所連携」、「民生委員の役割」、「安心感と笑顔を軸にした防災」、「顔の見える関係性の構築」といったメッセージが寄せられた。最後に著者からは、高潮や津波を含む多様な災害リスクを抱える東区において、住民と関係団体が一丸となり「誰一人取り残さない備え」を進めていくことの意義を改めて強調し、討議を締めくくった。

東支部 研修担当 松永 昭吾
(横浜国立大学元気なインフラ研究所所長/客員教授)

「スフィア基準」ワークショップを開催～中央支部～

8月26日（火）中央支部は日本赤十字九州国際看護大学准教授の森山ますみ氏を講師に迎えて8月度定例会「現場で活かす！スフィア基準 実践ワークショップ」をあすみんにて開催しました。

「スフィア基準」は被災者の尊厳と人権を守る国際的ガイドラインで、今回はその概要を学び、避難所運営を想定した事例検討を行いました。

アンケートでは参加者の9割以上が「かなり満足」と回答し、「1人当たりの基準の面積を確保するのは難しい」、「多様な視点の重要性を実感した」、「ペット対応や廃棄物などの課題が明確になった」などの声が寄せられました。

ジェンダーや外国人対応の必要性、施設の特徴を踏まえたレイアウト変更、着替え室の札やラジオ活用、現場にあるものをどう使うかなど具体的な工夫案も共有しながらも、「人権を守る」という視点を避難所運営に生かす難しさを痛感しました。

今回初めてスフィア基準を知った参加者も多く、資料を読み返して理解を深めたいとの意欲も見られました。

(中央支部 坂井 正司)



「長尾小学校防災訓練」・「別府公民館での避難所体験」～城南支部～

1. 5月17日（土）城南区役所が「福岡市 市民防災総合訓練」開催を決定。これに伴い長尾地区防災推進委員会・長尾地区自治協・長尾小PTAへの運営協力としてリーダー会城南支部、城南区防災士ネットワークが防災イベントに参加することになりました。長尾小学校4年生・5年生8クラス（240名）が対象となるため、当初、防災士の確保が厳しいと思いましたが、城南エリア内16名の方に、ご協力いただいて 防災授業を実施することが出来ました。



小学生向けに楽しい設問を加えた「クロスロードゲーム」や阪神淡路震災時における小学生主人公の「防災アニメ」、「防災講話」などを実施。地域の皆さん・小学生とともに防災について考える機会をいただきました。

2. 7月13日（日）別府公民館から発災時に公民館が避難所となった際を想定した研修について相談があり、牧菌さんを中心に男女共同参画協議会とリーダー会城南支部との共催で地域の方に向けた4回の研修（公民館で避難所体験）を企画しました。

第1回はイタリアンシェフから備蓄防災食を使って暖かい食事を摂る工夫を調理しながら紹介していただき、アレンジした料理を試食。中村学園大学薬膳ボランティア部からは能登半島地震被災地で実際に現地訪問した大学生から炊き出しボランティア活動体験を発表していただきました。

突然の災害発生で「非日常」が「日常」になる事態を想定して、地域の方々とともに備えについての取り組みを今後も継続できればと思います。



(城南支部 吉田 博則)